

一学期終業式を迎えて

体験する夏、挑戦する夏に

長い一学期が終わります。一学期は充実した活動ができたでしょうか。5月の但馬総体では、男女とも総合4位でしたが、同じくらいの規模の学校では、最もよい成績でした。皆さんが日頃がんばった成果でしょう。

4月10日の始業式では、皆さんに「夢はあるか」、「目標はあるか」ということを問いました。夢や目標があれば、やる気が起こるし、しんどくても頑張れる。たとえ大きな夢でなくても、今の自分の実力より少しでも上に目標を置いて、向上を目指してほしいと思います。部活動はこのことがよくあてはまります。もちろん、進路もそうです。自分が何になりたいか。そのためには何を学ぶ必要があるか。そしてそのために今自分は何をしなければならないか。この時季、3年生は、もう迷わず思い切って頑張るだけだと思います。先生や家族とよく相談し、暑い夏もやり抜いてください。

さて、明日より夏休みです。今日は、その夏の暮らしの中で、君たちに二つのことを期待したいと思います。

一つ目は、君たちにいろいろなことを「**体験**」して欲しいということです。

出石は江戸時代に五万八千石の城下町でした。学校には、江戸時代のものをはじめ古いものがあります。例えば鎧です。これを遠目に見ているだけでは、テレビの時代劇で観る鎧と変わりありませんが、手にとり、さらに着てみると、つまり体験することでわかることがたくさんあります。まず、とても小さいのです。江戸時代は総じて気温が低く、食料生産が厳しく、また獣の肉食は原則禁じられていましたから、小柄な人が多かったわけです。成年男子でも150センチそこそこだったといわれます。当時の鎧を今の男子高校生が着るととても窮屈です。また、時代劇の戦闘シーンで足軽がつけている簡素なものともずいぶん違うことにきづくでしょう。まず、素材が金属だけでなく、糸や布といった繊維や木材でできており、それに漆や金銀の装飾があるものがあります。手が込んでいるというか、武器というより工芸品、美術品と言ってもいいでしょう。これは、江戸時代は戦いのない平和な時代が長く、鎧は実用品というより、権威付けのような存在であったことがうかがえます。そして、日本の工芸技術の高さもわかります。また、一度鉄砲（火縄銃）を持ってみましょう。誰もがその大きさ、重さに驚くでしょう。しかも、弾を込め、縄に火をつけ撃つまでに時間がかかります。現代のピストルのように軽くありませんし、機関銃のように連発はできません。機動性に欠けることが、実際に手に取り、構えてみてわかるのです。

このように、本で読んだり写真で見ているかと思っていたことでも、実際に触れたりやってみることで別の事実というか、本当のことがわかります。また、英会話は自ら積極的に話しかけることで実力がアップしますし、職業調べも実際の現場を見学したりやらせていただいていることがあります。いつも勉強と部活で時間に追われる生活を送っているかも知れませんが、少し時間に余裕のある夏休みこそ様々なことに「体験」するチャンスです。思い切って体験してください。

君たちに期待する二つ目のことは、まとまった時間のある夏こそ、思う存分「**挑戦**」して欲しいということです。たとえば、3年生は一日10時間以上の**家庭学習に挑戦**してください。今までそれだけしたことのない人も、「進路」という目標があればできます。2年生1年生も勉強で頑張ってください。それとは別に、夏休み後半には、多くの部活動で新人戦があります。新しいメンバーでの初の公式戦です。暑い夏にがんばったその汗の分だけ強くなれます。もしすぐに勝てなくても、2学期、3学期と徐々に成果となって現れます。どうぞ思う存分挑戦してください。

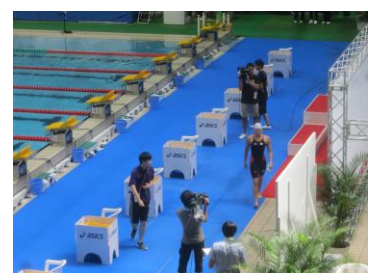
また、8月28日の始業式で二学期が始まるとすぐに出高祭です。1年生は高校で初めての文化祭への「**挑戦**」です。果敢な挑戦を期待します。最後に、皆さん全員が健康で充実した顔でここに登校してくれることを願っています。



雨の中のアンテナショップ (7/9)



堂々とした体育祭の入場行進 (6/13)



高校2年生の池江利花選手は今月末の世界選手権で8種目に挑戦する
(リオ五輪直後の広島インターハイ会場)